

# 福島潟の自然

(最終回)



## 福島潟に

### 自然を残そう

昭和五十年、福島潟の最後の干拓が終わりました。その干拓は国の事業として行われたもので、その結果、四〇〇ヘクタールもあつた潟が、約半分に減つてしまいました。そして、あの美しい風景が姿を消してしまふとともに、動物や植物などの自然にも大きな変化をおこして

しまいました。豊栄市の市章となっているヒシも、日本の北の端にあるとされていたオニバスも、今はほとんど見あたらなくなつてしまいました。

そして、貴重なトンボやその他の昆虫、それらを求めてやってくる鳥や魚たちも、ずつと少なくなつてしまいました。福島潟は、今、鳥獣保護地区に指定されて、およそ二〇〇ヘクタール残されています。そして、その水面には、ヒシやコウホネなどの水草がわずかに見られるものの、潟の半分以上がヨシやマコモなどの草におおわれ

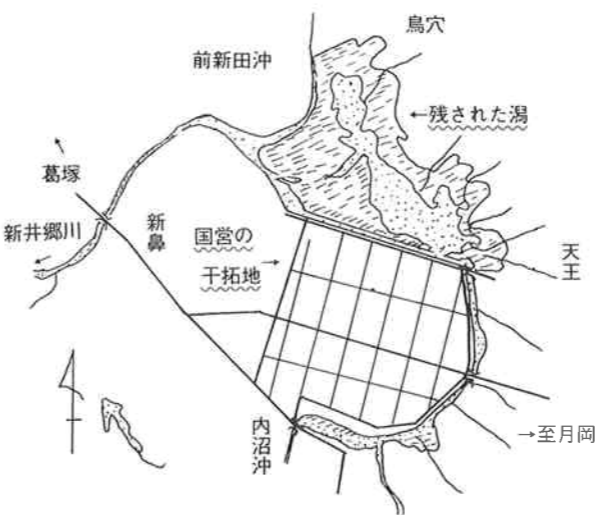
ています。渡り鳥も今のところたくさんきてはいるようですが、やがては、ヨシやマコモが潟をおおいつくしてしまうかもしれせん。

福島潟は、昨年一月「二十世紀に残したい日本の自然一〇〇選」に選ばれています。私たちは、この残された福島潟の自然を見直し大切にしていかなければいけません。そして、いつかまた、植物の宝庫、動物たちの楽園としての福島潟にしていきたいものです。

豊栄地区理科教育センター  
斎藤 道春



オニバスの群生と開花(円内)



## 楽しい行事がいっぱい

### 葛塚東小学校

ぼくたちの学校は、五頭連峰が一望に見える鉄筋四階の校舎です。

体力づくりの一つとして二時間めが終わると音楽に合わせて全員でグラウンドを四分間走りま

す。また、部活動もさかんで野球部やバスケット部は、毎年の大会でよい試合をしています。

児童会の行事では、春には全校集会、夏には水中ゲーム大会秋には球技大会、そして冬には年賀状交換会やなわとび大会などのいろいろな行事を行つています。中でもなわとび大会は、何種目ものどび方に挑戦してチャンピオンを決めたり、全員で長なわなどとして楽しい大会です。

校内美化運動として、ぼくたちの学校はぼくたちの手で、を言葉にして空きカンを利用して護美箱を作り、ゴミ拾い運動を行つています。これからも、ぼくたちの手でゴミが一つもおちていないきれいな学校にしていきたいと思ひます。

六年 井越孝夫



なわとび大会で

ぼくらの学校

## 大きな夢 小さなゆめ

### 保母さんかピアノの先生に



岡一小4年 中野 裕子

わたしのゆめは、二つあります。

一つは、保母さんになることです。わたしは、小さい子どもが好きです。わたしのお母さんも保母さんをしています。夕飯の時など、保育園の一日のできごと

を話してくれます。それは、楽しくおもしろい話ばかりなのです。そんな話を聞いているわたしは「なんだか、保母さんになりたいなあ」という気持ちが、わいてくるのです。

もう一つのゆめは、ピアノの先生です。もう、だいぶ前からピアノをいっしょうけんめいに習ってきました。それは、教えてくださるピアノの先生が、やさしかったからだと、今、私は思っています。こんなやさしいピアノの先生に、わたしもなりたいたいです。

この二つのゆめの実現に向かって、わたしはきょうから、また、がんばって勉強していきたいと思ひています。

シを見て、ぼくは「あつ、これだ」と、思わずさげんでしまいました。

以前こんなことがありました。ぼくの弟が「おすしが食べたいなあ」と、お母さんにねだると、お母さんが困つた顔をして「あしたにしようね」と、弟に言いきかせていました。

その二人のやりとりを近くで立ち聞きしていたぼくは、大きくなって「すしや」になったら、おいしいすしをたくさん作つて、せめて弟のたんじょう日には、腹いっぱい食べさせてあげようと心に決めました。

そのためにも、ぜったいに一人前の「すしや」になりたいのです。これが、ぼくのささやかな、いや、大きい夢です。

### うでのいいすしやさんに



横井小6年 目黒 篤史

ぼくは、大きくなつたら「すしや」になろうと思ひます。そもそも「すしや」になろうと思つたきっかけは、新聞には

さまれてはいつてきたチラシに「すしや」のことがのつていたからです。そのチラ